

ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2012年4月～2013年3月

国名：日本

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていた
だきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 玉川大学 教育学部

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒 194-8610

東京都 町田市 玉川学園 6-1-1

Website: http://www.tamagawa.jp/

児童生徒数：男子 490 名 女子 909 名 合計 1399 名

児童・生徒の年齢 18 歳～ 25 歳

2. 担当者

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災

- 食育
- 伝統文化
- そのほか（「東アジア共同体」形成に向けたアイデンティティ教育）

4. 活動概要

1年間の主な活動内容について簡単に記載願います（欄が足りなければ、添付資料をつけていただいても構いません）。

① 『ユネスコスクール研修会 in 多摩』（平成25年1月19日）の開催

2009年度から文部科学省受託事業「日本／ユネスコ パートナーシップ事業」の一環として、3年間にわたり実施してきた『ESD 地域推進フォーラム』の実績をふまえ、とくに多摩市との連携とユネスコスクール地域ネットワーク構築の一つの成果として、2013年1月19日（土）に、ユネスコスクールである多摩市立多摩第一小学校を会場として、『ユネスコスクール研修会 in 多摩』を開催した。本研修会には学内外の教育関係者172名の参加があった。日本ユネスコ国内委員会、近隣地区（多摩市、稲城市、横浜市）のユネスコスクール関係者と教育委員会、全国的なユネスコスクール地域ネットワークのモデル地区である岡山・奈良・宮城から ASPUnivNet 加盟大学の担当者、玉川大学のユネスコスクール関係者が集い、地域特性を活かした ESD の新たな実践の可能性とユネスコスクールの地域ネットワーク構築に関する研究報告および事例報告が行われた。

具体的には、午前中の3・4校時に、多摩市立多摩第一小学校における ESD の公開授業見学が学年ごとの学習テーマで行われた：1学年・2学年〔生活科 おもちゃランドで遊ぼう〕、3学年〔総合的な学習の時間 わたしたちのまちを調べよう〕、4学年〔総合的な学習の時間 WEB 会議で他校に発信しよう〕、5学年〔総合的な学習の時間 世界の米料理を調べよう〕、6学年〔総合的な学習の時間 エネルギーを考えよう〕。

午後の公開シンポジウムでは、まず「ESD 授業実践の全国展開」というテーマで、ユネスコスクール地域ネットワークのモデル地区である奈良、宮城、岡山における ESD 実践の最前線が、奈良教育大学副学長の加藤久雄氏、宮城教育大学准教授の川崎惣一氏、岡山大学教授の住野好久氏からそれぞれ報告された。また「多摩地域での ESD 授業の取組み」として、横浜市立永田台小学校の住田昌治校長と清水沙織教諭、稲城市立稲城第四中学校の杉本真紀子校長、多摩市立多摩第一小学校の森田啓子研究主任、そして玉川学園の石塚清章教学部からそれぞれ地域や学校の特性を活かした ESD 実践の成果と課題についての報告がなされた。これを受け、「ESD の授業実践から考える 2050 年の大人づくり」をテ

ーマとしたパネルシンポジウムが開催され、玉川大学教育学部教授の小林亮の司会のもと、多摩市長の阿部裕行氏、日本ユネスコ国内委員会広報大使の平野啓子氏、伊豆市教育委員会指導主事の大塚明氏、ユネスコ・アジア文化センター参与の渡辺一雄氏、多摩市立多摩第一小学校校長の棚橋乾氏がパネリストとして長期的展望に立った ESD の課題とそれに向けての学際的地域連携のあり方についてかなり突っ込んだ議論が行われた。

最後にユネスコ・アジア文化センター参与の渡辺一雄氏による講評と総括が行われ、玉川大学教育学部教授の寺本潔氏による本事業の今後の展望についての表明がなされた。

今回の「ユネスコスクール研修会 in 多摩」は、ユネスコスクール地域連携のひとつの目に見える成果として、多摩市立多摩第一小学校を会場として行われたことが特筆に値する。また何よりも、午前中に、多摩第一小学校での実際の ESD 公開授業が行われたことは、午後の公開シンポジウムにおける ESD をめぐる議論の確かな根拠を提供する体験学習だっただけに、まさに理論と実践の両面を総合したプログラムとしての意義を鮮明にするものだったと言える。最後のパネルシンポジウム「ESDの授業実践から考える2050年の大人づくり」では、日本ユネスコ国内委員会広報大使の平野啓子氏をはじめ、各面で ESD の展開に指導的役割を果たしているパネリストから、今後の ESD のあり方と課題について多角的な視点からの話題提供と議論を頂いた。とくに多摩市長の阿部裕行氏が本シンポジウムにパネリストとして参加し、将来に向けた多摩市の ESD ビジョンを表明したことで、ひとつの自治体が行政の主導のもと、大学、学校、NPO、企業を含む多様なセクターの関係者や専門家と連携して、どのようにユネスコスクール地域コンソーシアムを構築してゆくのかの一つのモデルを内外に提示することができたと考えている。

今回の「ユネスコスクール研修会 in 多摩」で明確に示されたように、多摩地域において、多摩市教育委員会と玉川大学教育学部、そしてユネスコスクール加盟校や地域コミュニティとの間の緊密な連携によって、次第に「ユネスコスクール多摩地域コンソーシアム」が実体性を帯びた ASP ネットワークへと成長してきている。2013年11月30日～12月1日に多摩市で開催が予定されている「第5回ユネスコスクール全国大会」を次のステップとして、2014年秋の ESD 最終年会合（愛知・名古屋）およびユネスコスクール世界大会（岡山）に向け、関係者間の多角的な連携と協同を強め、多摩の地域特性を活かした教材作成と ESD カリキュラム構築、そして玉川大学教育学部と多摩市教育委員会との包括協定を視野に入れた ESD 教師教育の体系化を勧めてゆきたいと考えている。

② 「ユネスコスクール多摩地域ネットワーク」ホームページの開設

多摩市や稲城市、川崎市、横浜市など近隣自治体とのユネスコスクールにおける連携を強め、ASP地域ネットワークとしての機能を拡充するために、WEB上のホームページ「ユネスコスクール多摩地域ネットワーク」

(<http://unesco-school-tama.jp>) を開設した。

このホームページは、ユネスコスクール多摩地域コンソーシアムの構築に向けて、多摩地域のユネスコスクール関係者同士の情報共有のフォーラムとして作成されたものである。多摩市や稲城市など関連自治体におけるユネスコスクールのリストと代表的実践の紹介、また多摩地域におけるユネスコスクール関連行事の広報と参加申込みなどの目的で活用されている。個々のユネスコスクールの学校紹介については、ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）が運営管理する全国版「ユネスコスクール公式ウェブサイト」

(<http://www.unesco-school.jp>) とリンクしており、学校名をクリックすると全国版ウェブサイトでの詳細な学校案内が閲覧できるようになっている。

今後は、当ホームページ「ユネスコスクール多摩地域ネットワーク」に参加する自治体を増やし、また内容的にも、ユネスコスクールにおける優れた教育実践（GP）をより積極的に紹介していくことで、多摩地域におけるユネスコスクールおよびESD関連の情報共有の場としてその機能を一層高めていくことが期待される。

③ 『第4回ユネスコスクール全国大会』への参加

2013年1月26日（土）に開催された『第4回ユネスコスクール全国大会』（会場：奈良教育大学）および1月27日（日）に開催された『第3回世界遺産学習全国サミット in なら』（会場：奈良市教育センター、なら100年会館）参加し、各地域におけるユネスコスクールの教育実践を学ぶと同時に、ESDの推進に向けて学校、大学、行政、地域社会をつなぐ学際的アプローチの可能性と課題について、関係者と議論を深めた。とくに奈良教育大学の関係者とは、多摩市で開催される『第5回ユネスコスクール全国大会』における大学の関わり方について協議を行った。

④ ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)の活動

ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet）の加盟大学として、以下の「日本／ユネスコ パートナリシップ事業」ASPUnivNet 連絡会議に参加し、加盟大学間のネットワーク強化と共同事業の展開に向けた提案と協議を行った。また宮城教育大学が中心となりASPUnivNetとしてフラッグシップ事業に向けて提唱している「お米プロジェクト」（Rice Project）の具体的展開

の見通しと参加方法について協議を行った。さらに ASPUnivNet への加盟を検討している埼玉大学に対して情報提供等の支援を行った。

- a) 「平成 24 年度 日本／ユネスコ パートナーシップ事業」
第 1 回 ASPUnivNet 連絡会議（東京秋葉原 UDX、2012 年 7 月 14 日）
- b) 「平成 24 年度 日本／ユネスコ パートナーシップ事業」
第 2 回 ASPUnivNet 連絡会議（東京秋葉原 UDX、2011 年 10 月 6 日）
- c) 「平成 24 年度 日本／ユネスコ パートナーシップ事業」
第 3 回 ASPUnivNet 連絡会議（奈良教育大学、2013 年 1 月 25 日）

⑤ 平泉スタディツアー（2012 年 8 月 23 日～25 日）

玉川大学ユネスコクラブは、2012 年 8 月 23 日～25 日にかけて、昨年度に世界遺産に登録された奥州平泉にスタディツアーを行った。平泉ユネスコ協会の支援を得て、中尊寺、毛越寺をはじめとする奥州藤原氏の「浄土思想」にもとづく文化遺産を見学し、古代と現代をつなぐ文化伝統のつながりを体験学習した。また平泉文化遺産センターを訪問し、平泉がユネスコ世界遺産に登録されるまでの経緯や、ユネスコのボコヴァ事務局の来訪の趣旨や意義について、平泉ユネスコ協会との合同セミナー等を通じて学習することができた。この平泉スタディツアーの成果については報告書を作成した。

⑥ 横浜市立永田台小学校との『エコプロダクツ 2012』での共同出展

昨年度、ユネスコスクールの加盟校である横浜市立永田台小学校との間で、「武家の都」鎌倉をテーマとした小大連携の世界遺産学習プログラム「いざ鎌倉プロジェクト」を行い、一定の成果を上げたことを受け、2012 年 12 月 13 日～15 日に東京国際展示場（東京ビッグサイト）にて開催された「エコプロダクツ 2012」に、ESD 教育実践（世界遺産教育、環境教育、国際理解教育）をテーマにした永田台小学校との共同出展を行った。

⑦ 多摩市のユネスコスクールとの支援・連携プロジェクト

本年度も前年度に引き続き、近隣地区の中でも特にユネスコスクール活動および ESD 実践の盛んな多摩市との連携強化と協同プログラムの開発が、本学の大きな活動テーマとなった。具体的には、多摩市立多摩中学校と英国サウスエンド市のユネスコスクールとの国際交流プログラム「テムズ川プロジェクト」

において、玉川大学ユネスコクラブの学生が、中学生のメール通信における英語翻訳指導と、テレビ会議におけるファシリテーターを務めた。また玉川大学の教員養成プログラムの一環として、教育学部学生の多摩市内のユネスコスクールにおける教育実習と ESD 研修を実施すること、現職教員の ESD 訓練プログラムの共同開発を行うことについて、包括協定の締結に向けて合意が形成された。さらに、2013年11月～12月の「第5回ユネスコスクール全国大会」（多摩）および2014年11月の「ユネスコスクール世界大会」（岡山）に向けて、玉川大学教育学部と多摩市教育委員会が協同で実施できるプログラムについて、「日本／ユネスコ パートナリシップ事業」への申請内容の検討をはじめ、プロジェクトを具体的に計画、準備、実施していく作業チームの結成が合意された。

多摩市立多摩中学校では、2012年8月30日に、教職員を対象とした「多摩市夏季ネットワーク研修」にて ESD 講演とワークショップを行い、また生徒を対象に2012年11月5日に文化遺産をテーマとした ESD 出前授業を行った。

また2012年11月23日にパルテノン多摩で開催された「ユネスコスクール地域交流会 in 関東」および2013年3月9日に多摩永山情報教育センターで開催された公開シンポジウム「2050年の大人づくりを目指して」に参加し、多摩市および全国のユネスコスクール関係者との情報交換と協同プログラムに向けての協議を行った。

⑧ ユネスコスクール加盟支援

ユネスコスクール申請に向けた関係小中高等学校への支援として、富士市立岩松北小学校、稲城市立若葉台小学校、稲城市立稲城第六小学校、稲城市立稲城第七小学校、横浜市立幸ヶ谷小学校、横浜市立平尾小学校、湘南学園中学・高等学校、静岡市立玉川中学校、稲城市立城山小学校の加盟申請書に対するチェックとアドヴァイスを行った。また多摩市教育委員会、稲城市教育委員会、川崎市教育委員会、横浜市教育委員会、多摩市立多摩中学校、多摩市立連光寺小学校、静岡県天城中学校、町田市立小山田小学校、世田谷区立中里小学校の ESD 活動推進に向けた教育活動（出前授業等）、教材開発面での助言を行った。

⑨ 韓国ユネスコスクール調査旅行（2013年2月24日～28日）

宮城教育大学からの依頼により、2013年2月24日～28日に、ユネスコスクール「RICE プロジェクト」に関する日韓交流の促進のための予備調査とパートナーシップ協定の準備のため、多摩市立教育委員会の山崎智明指導主事とともに、韓国金海市のユネスコスクールをはじめユネスコスクール関連機関を訪問調査した。とくに、日本のユネスコスクールとの交流を強く希望している韓国金海市のユネスコスクールと、多摩市のユネスコスクールとの日韓交流

プログラムの可能性、計画およびテーマについて具体的に話し合った。

この調査旅行での訪問先は以下のとおりであった：

- A) ユネスコ・アジア太平洋国際理解教育センター（APCEIU）
- B) 慶尚南道金海市のユネスコスクール3校
（月山小学校、栗下高等学校、石峯小学校）
- C) 金海市教育委員会
- D) 韓国ユネスコ国内委員会
- E) 韓国ユネスコクラブ協会連盟

今回の韓国出張は、「RICE プロジェクト」を中心テーマとする日韓のユネスコスクール間交流の促進にむけた調査と準備が目的であったが、訪問した5箇所のユネスコ関連機関はいずれも日本との交流に積極的で、とくに金海市の教員研究会「ESD 教育研究グループ」を中心とするユネスコスクール地域ネットワークとは、多摩市の連光寺小学校と金海市の月山（Weolsan）小学校とのテレビ会議を使った交流授業（2013年3月8日に実施）をはじめとする具体的な交流プログラムの準備に入ることができた。今後は、学校間交流から地域間交流へと拡大してゆく方向で、日韓のユネスコスクール間の交流と協同を積極的に進めてゆきたいと考えている。

⑩ 世田谷区へのユネスコスクール支援活動

世田谷区教育委員会の依頼により、世田谷区の学校教員を対象とした世田谷区ESD夏季研修会を2012年8月22日に世田谷区立中里小学校を会場に実施し、学校現場でのESD実践の導入の仕方と課題について講演とワークショップを行った。

また世田谷区立中里小学校の依頼により、2012年6月13日に開催された校内研究会にて講師として、小学校におけるESD実践の可能性と課題について講演と授業評価を行った。

今後は、世田谷区教育委員会とより密接に連携して、世田谷区におけるユネスコスクールの拡大とESD教育実践の支援を進めてゆきたいと考えている。

⑪ パリ・ユネスコ本部へのユネスコスクールとESDに関する調査旅行

ユネスコスクールの現在の世界的な動向と、2014年に最終年会合を迎えるESDのさらなる展開とも関連したユネスコスクールの将来展望について調査をするため、2012年8月2日～6日に、ユネスコ本部、ユネスコ日本政府代表部、フランス・ユネスコ国内委員会を訪問した。

ユネスコ本部では、ユネスコスクール国際コーディネーター（ASP International Coordinator）のリヴィア・サルダリ（Livia Saldari）氏とESD課長（Chief of ESD Section）のアレクサンダー・ライヒト（Alexander Leicht）氏からそれぞれユネスコスクールとESDの世界的動向について話を伺った。フランス・ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクール国内コーディネーターであるベアトリス・デュプー（Béatrice Dupoux）氏と会見し、フランスにおけるユネスコスクールの現状と課題について伺った。またユネスコ日本政府代表部を訪問し、木曾功特命全権大使の謁見を賜った。木曾ユネスコ大使からは、ユネスコスクールとESDの今後の展開と、それに対する日本の貢献のあり方について御講話を伺った。

全体として、今回の訪問調査で、以下の点が明らかとなった：

- 1) 2014年以降のESDの枠組み作り（グランドデザイン）が現在、世界規模での焦眉の急を要する課題であること。
- 2) 平和、人権および持続可能性を中核とするユネスコの価値教育をユネスコスクールの教育内容としてどのように取り込み、カリキュラム化していくかが、ユネスコスクールにおける教育の質の保障（Quality Education）をしていく上で極めて重要な課題であること。
- 3) 加盟各国に存在し活動しているユネスコスクールの国内ネットワークを、地域ネットワークさらに世界的ネットワークとして真に機能させてゆくために、ユネスコスクールの国際間の交流や学び合いの「仕掛け作り」をより体系的に促進していく方略が求められること。

今回の調査で得た情報と知見を生かし、今後のユネスコスクール（ASPnet）およびESDに関する研究活動につなげていくと同時に、高等教育に携わる立場から、日本のユネスコスクールの地域連携（ユネスコスクール地域コンソーシアムの構築）と国際交流の促進（たとえば日本のASPnetとフランスのASPnetとの定期的交流など）、ESD教師教育カリキュラムの構築、さらに「東アジア共同体」など歴史的和解や平和構築に向けてのアイデンティティ教育とユネスコスクールの枠組との統合モデルの形成といった教育課題に一層の工夫と熱意をもって取り組んでゆきたいと考えている。

⑫ 日本ユネスコ国内委員会への傍聴参加

2012年9月13日に開催された第131回日本ユネスコ国内委員会総会および2013年2月13日に開催された第132回日本ユネスコ国内委員会総会に傍聴参加した。また2012年12月27日に開催された日本ユネスコ国内委員会第487回運営小委員会に傍聴参加した。これらの傍聴参加は、玉川大学教育学部がユネスコスクールとして、またユネスコスクール支援大学間ネットワーク

(ASPUnivNet)の一員として、ユネスコスクールや ESD をはじめとする国内外のユネスコに関わる諸課題と現状、展望について、最新の情報を得、ユネスコスクール支援の活動の質を向上させてゆくための研修的意味合いを持つものであった。

活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用 ■ ユネスコクラブの活動として実施
- その他（文部科学省委託事業「日本／ユネスコ パートナーシップ事業」による「ユネスコスクール研修会 in 多摩」等の行事の実施）

活動の内容を補完する以下の資料があれば添付願います。

- 紙媒体の参考資料（新聞、出版物など） CD-ROM 写真
- その他（2013年1月19日開催の『ユネスコスクール研修会 in 多摩』報告書。別途、日本ユネスコ国内委員会宛にご送付させていただきます。）